

令和4年度 全国学力学習状況調査の結果について

調査日 令和4年4月19日（火）

令和4年8月18日 竹田市教育委員会

■結果の概要

	全体 正答率	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			
		言葉の特徴 や使い方	情報の扱 い方	我が国の 言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技 能	思考・判 断・表現	選択式	短答式	記述式	
R 4	竹田市	64.0	69.2	—	83.8	63.1	51.5	60.4	71.7	58.8	70.0	63.8	49.7
	全国	65.6	69.0	—	77.9	66.2	48.5	66.6	70.5	62.0	71.8	63.6	51.3
R 3	竹田市	61.0	69.9	—	—	71.1	55.8	36.6	69.9	54.3	68.4	70.5	31.9
	全国	64.7	68.3	—	—	77.8	60.7	47.2	68.3	62.1	71.7	70.6	40.2

■つまづきが見られた問題

		正答率			無回答率		
		市	全国	差	市	全国	差
2一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	57.7	70.6	-12.9	0.8	1.6	0.8
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	39.2	47.7	-8.5	0.0	3.0	3
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> に入る内容を書く	62.3	68.3	-6	10.0	12.2	2.2

【課題】

- ・「読むこと」の領域の設問（4つ）はいずれも正答率が低く、叙述をもとに作品の全体像や表現の効果を捉えたり、登場人物相互の関係や気持ちを捉えることが課題。
- ・条件に従って一定の量の文章を書くこと
 - * 設問1四については、話し合いにおけるそれぞれの立場や意図を明確にしなが、自分の考えをまとめるものだが、誤答のほとんどがどちらかを選ぶことはできている一方で問題点に対する解決方法（自分の考え）が書けていない。
- ・立場や意図を明確にして計画的に話し合い、自分の考えをまとめること。

【授業で気をつけること】

- ①人物像や物語の全体像を叙述から捉えたり、表現の効果を考えたりする指導の充実。
 - * 何が書かれているかという内容だけでなく、どのように描かれているかという表現の特徴に着目させ、着目した複数の叙述を基に考えたことを交流する指導をする。
- ②つけたい力を焦点化し、それに合った言語活動（output）を設定した単元計画の作成。
= 単元全体を貫く学習課題。
- ③立場を明確にして話し合い、自分の考えをまとめる指導の充実。
 - * 異なる意見を生かして自分の考えをまとめることができるよう、表現の仕方を指導する。
「～という意見（考え）もあるが、私は～」
「～という意見（考え）の～については納得するが、・・・については～」などの表現
 - * 話し合いの目的や方向性を検討する場面の設定をする。

■結果の概要

	全体 正答率	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
		数と式	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習	選択式	短答式	記述式	
R 4	竹田市	61.0	69.5	60.8	—	48.3	66.7	67.4	53.8	—	50.6	75.6	56.5
	全国	63.2	69.8	64	—	51.3	68.7	68.2	56.7	—	51.8	76.5	60.2
R 3	竹田市	64.0	60.8	45.7	71.4	67.6	72.6	68.2	59.5	—	70.2	70.1	47.3
	全国	70.2	63.1	57.9	74.8	75.9	76	74.1	65.1	—	76	75.8	53.0

■つまづきが見られた問題

		正答率			無回答率		
		市	全国	差	市	全国	差
4 (1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	37.7	48.8	-11.1	1.5	3.8	2.3
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	60.8	67.7	-6.9	8.5	8.6	0.1
2 (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	58.5	64.6	-6.1	6.2	3.3	-2.9
3 (1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	69.2	75.3	-6.1	1.5	2.1	0.6

【課題】

- ・内容が簡単でも問題文が長いと正答率が低い。正答率が高い問題は文が短い。
- ・「変化と関係」「データの活用」が低い。「記述式」が低い（昨年度5年時の分析同様）
このことから昨年度5年時の授業改善が進んでいない
- ・プログラミング教育の実践例を扱っていない。

【授業で気をつけること】

前提として「教職員が問題を解いている」「単元計画を作成している」「課題とまとめのある授業を進めている」

①具体物を使った導入や操作活動

導入で必ず関係する生活場面を想起させる体験や操作活動を入れ、数理を解決できる見通しを持たせる。教科書と同じものがなければ、学校や地域にある場面と置き換える。ここでのICTの活用は効果が低い。特に6年では中学での具体物での学習が減ることからできる限り体を使い学ばせる必要がある。

②半具体物に置き換えさせる

「低：ブロック、タイル 中：数直線やテープ図、高：2本数直線やテープ図、面積図」などのを使い、生活場面を算数の場面に置き換えさせ、抽象化させる。半具体物は単元を通して、学習者の考えづくりの助けとなるように進める。特に6年は2つの要素のある数直線（速さや濃度など）について習熟させて、中学での関数につなげていきたい。

③1人が1時間で必ず2回以上発言する授業

学年に応じた算数の用語の説明を授業中に行い、自力での解決をさせてからのペアやグループによる話し合い活動、全体での発表時に算数の用語を適切に頻繁に使用させる。（和差積商、整数、分母、分子、わりきれない、変わり方、計算のくふう）特に6年は、記述に課題が大きいので、考えを書くときには、図や表、式とその説明を文で書かせ、

■結果の概要

	全体 正答率	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
		エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習	選択式	短答式	記述式	
R 4	竹田市	62.0	52.1	63.9	70.5	64.8	64.6	60.9	—	63.5	73.9	45.7
	全国	63.3	51.6	60.4	75	64.6	62.5	63.7	—	66.8	66.2	47.3
R 3	竹田市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	全国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

■つまずきが見られた問題

		正答率			無回答率		
		市	全国	差	市	全国	差
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	34.9	45.5	-10.6	3.9	6.5	2.6
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	56.6	65.5	-8.9	0.8	1.4	0.6
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	68.2	76.1	-7.9	0.0	0.7	0.7

【課題】

- ・「冬の晴れた夜は、気温が下がる」という情報を天気と気温の関係を示すグラフから読み取ることができていない。
- ・昆虫の育ち方と食べ物について得られた情報をもとに、昆虫の食べ物に関する課題を見いだすことができていない。
- ・カブトムシの「育ち方（蛹になるか、ならないか）」と「主な食べ物（動物か植物か）」の2つの視点からカブトムシの成長を分析することができていない。

【授業で気をつけること】

- ①観察などで得られた結果を、「結果からいえること」の視点から分析・解釈して、自分の考えを持つ授業を展開する。
- ②実験や観察で得られた結果をもとに、さらに学習を掘り下げる課題を見いだす「課題づくり」に重点をおく。
- ③自然の事物・現象について得られた情報を複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことに重点をおく。

■結果の概要

	全体 正答率	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			
		言葉の特徴 や使い方	情報の扱 い方	我が国の 言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技 能	思考・判 断・表現	選択式	短答式	記述式	
R 4	竹田市	70.0	72.3	39.0	73.5	66.2	39.0	66.9	69.3	61.9	77.6	69.1	55.1
	全国	69.0	72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	69.0	62.3	73.7	70.3	57.4
R 3	竹田市	63.0	—	—	73.2	83.2	54.9	45.4	—	—	63.6	71.2	55.5
	全国	64.6	—	—	75.1	79.8	57.1	48.5	—	—	63.9	74.4	56.0

■つまづきが見られた問題

		正答率			無回答率		
		市	全国	差	市	全国	差
2 三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	39.0	46.5	-7.5	4.4	9.0	4.6
3 一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	43.4	52.5	-9.1	0.0	0.7	0.7
3 三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	56.6	62.0	-5.4	0.7	1.0	0.3

【課題】

- ・資料から一部を引用して文章を書くことに課題。正答が全体の39%であり、全国値と比して8.9ポイント低い。
- ・代表的な文章の表現技法を理解し、使うことに課題。
- ・話の展開に即して文章を理解することに課題。

【授業で気をつけること】

- ① 「適切な情報を抜き出すとともに、『例えば、』に適切に続くように」答えてはいるが、「引用する部分をかぎかっこでくくって」書いていない誤答が全体の50%あり、全国値に比して11.9ポイント高かった。このことから「引用」の概念が定着していないことが考えられる。本や資料から文章を引用して説明したり記録したりする（中学1年 B書くこと(2)のア）言語活動を展開することが必要である。その際、引用部分と自分の意見を述べた部分を区別して書くように指導することが望まれる。
- ② 正答が43.4%に対して、「選択肢において正しい表現技法を選択しているが、『比ゆ』または『たとえ』などと解答できていない」誤答が47.8%あった。中1段階での指導事項である「比ゆ・反復・倒置・体言止め」（中1「知識・技能」(2)のイ）といった表現技法について確実に押さえる必要がある。
- ③ 話の展開に即して文章を理解するためには、まとまった文章を読むことに慣れることが必要である。小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝えあったりする活動（中1C読むこと(2)のイ）に取り組む。

■結果の概要

	全体 正答率	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習	選択式	短答式	記述式	
R 4	竹田市	53.0	61.3	43.4	41.9	61.5	61.9	37.9	—	54.0	68.2	37.9
	全国	51.4	57.4	43.6	43.6	57.1	59.9	36.2	—	52.6	65.7	36.2
R 3	竹田市	55.0	62.1	45.4	57.8	54.9	—	—	—	49.6	69.5	32.0
	全国	57.2	64.9	51.4	56.4	53.8	—	—	—	52.4	70.5	35.0

■つまづきが見られた問題

		正答率			無回答率		
		市	全国	差	市	全国	差
8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	34.6	38.4	-3.8	17.6	24.4	6.8
9 (2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	11.0	12.5	-1.5	23.5	38.5	15
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	53.7	54.6	-0.9	5.1	7.2	2.1

【課題】

〔8(2)〕問題解決の方法について、表・式・グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたのかといった「用い方」を明確にして説明することに課題がある。(2年教科書 p 84問2参照)

〔9(2)〕提示された方針に基づいて証明することに課題がある。章末問題や総合的な問題に取り組ませることで、文章や証明から必要な情報を読みとる力の育成が必要である。(2年教科書 p 160②参照)

〔8(1)〕表とグラフを対応させて考える問題であったが、約2ページにわたる問題の内容を読みとる力に課題があったと考えられる。8(2)と合わせて、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に考える活動の充実が必要である。(2年教科書 p 84参照)

◆8(2)9(2)については、無回答率が高い。問題に対して考察したり説明したりする際、自分の言葉で表現する場を充実させていく必要がある。

【授業で気をつけること】

①ねらいと評価規準の明確化

本時で「生徒にどんな力をつけたいのか」「生徒が何ができればよいか」を明確にし、具体的な姿で設定しておく。
→授業のゴールがイメージでき、つけたい力の確実な定着につながる。また評価規準に達しない生徒への手立てを講じやすくなる。

②数学的な表現を用いて筋道を立てて説明する活動の充実

焦点化した問題(課題)を数学的に解決し、数学的な表現(言葉や数、式、図、表、グラフなど)を用いて筋道を立てて説明する活動を充実させる。また、説明の過不足を生徒同士で補足できるような展開を設定する。(不十分な説明の場合は「何が足りないのか?」「どのような説明であればよいか?」等を生徒に問い直し、生徒に補足させる等)

※授業で学んだことを「まとめ」や「振り返り」として自分のことばで表現する活動を定着させることも、数学的な表現を用いた説明力の育成につながる。

③基礎・基本の定着

学習したことを確認する問題や反復練習の機会を充実させる。(授業と家庭学習の連動、定期的な練習時間の確保、授業ははじめの前時とのつながりの確認や授業後の振り返りの充実等)

■結果の概要

	全体 正答率	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
		エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習	選択式	短答式	記述式	
R 4	竹田市	48.0	41.2	47.9	58.1	44.9	45.6	49.9	—	47.9	28.7	54.1
	全国	49.3	41.9	50.9	57.9	44.3	46.1	51.0	—	49.6	24.8	53.5
R 3	竹田市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	全国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

■つまづきが見られた問題

		正答率			無回答率		
		市	全国	差	市	全国	差
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	23.5	35.9	-12.4	1.5	0.4	-1.1
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	34.6	45.0	-10.4	0	0.4	0.4
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	45.6	53.4	-7.8	2.2	1.0	-1.2

【課題】

- ① 全国と比べてポイントが低い問題（11問/21問）に共通して見られる問題の特徴は、
 - ・問題文の読み取りを含めて、課題に正対した考察ができていない。
 - ・実験や観察の条件制御を適切に行えていない。
 - ・結果のグラフ化やモデル化を行い、見通しを持って推測・推論することができない。
 - ・学習内容が身近な生活や社会に結び付けられていない。
- ② 中3生はこれまでのコロナ禍で実験や観察の回数が減少しているのではないか。またタブレット等での画像や映像で実験を視聴して終わってしまうことがあれば本末転倒である。
- ③ 新学習指導要領の内容に授業が追い付いていない感があるが、時間を掛けて単元計画の工夫などの蓄積が必要である。

【授業で気をつけること】

- ① 本時の課題の妥当性について吟味し、生徒に納得させたうえで授業を展開しているかが重要。また単元の中で生徒自らが課題を設定する活動も取り入れる必要がある。
 - ② 単元のまとまりの中で見通しを持って「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」をどの授業のどの活動に取り入れるか計画することが必要。
 - ③ 実験、観察を伴う授業では・・・
 - i) 目的に合った条件制御を行い、生徒が理解した上で実験を計画する。
 - ii) 誤差も含めて必要なデータを過不足なく用いて、グラフ化やモデル化につなげる。
 - iii) 結果から導いた考察が、実験の目的と整合性があるのか吟味する。
- 以上の内容をレポート形式でまとめる活動を積極的に仕組んでいく。またレポート発表の活動を取り入れ、互いに批判検討することで思考・判断・表現の資質能力を育成することにつなげる。その時に効果的にICTを活用することも重要である。

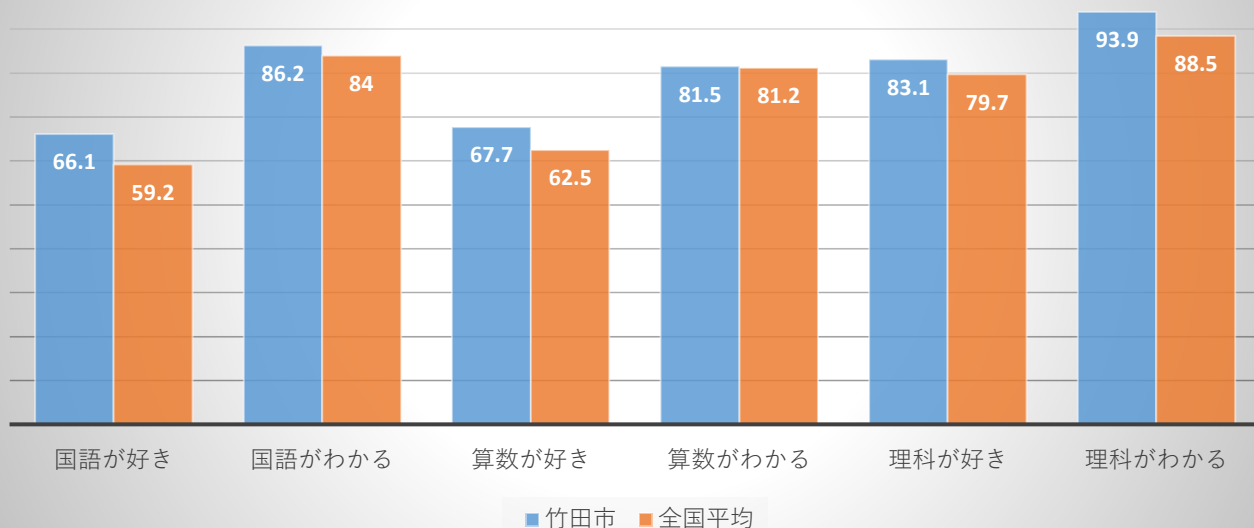
◆肯定率が高かった項目（全国平均との比較）

	竹田市	全国平均	差
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	86.9	73.8	13.1
自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	77.7	65.1	12.6
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	83.9	72.7	11.2

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

	竹田市	全国平均	差
放課後や週末に、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	10.8	24.1	-13.3
将来の夢や目標を持っていますか	73.9	79.8	-5.9
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	68.5	71.5	-3

教科学習について



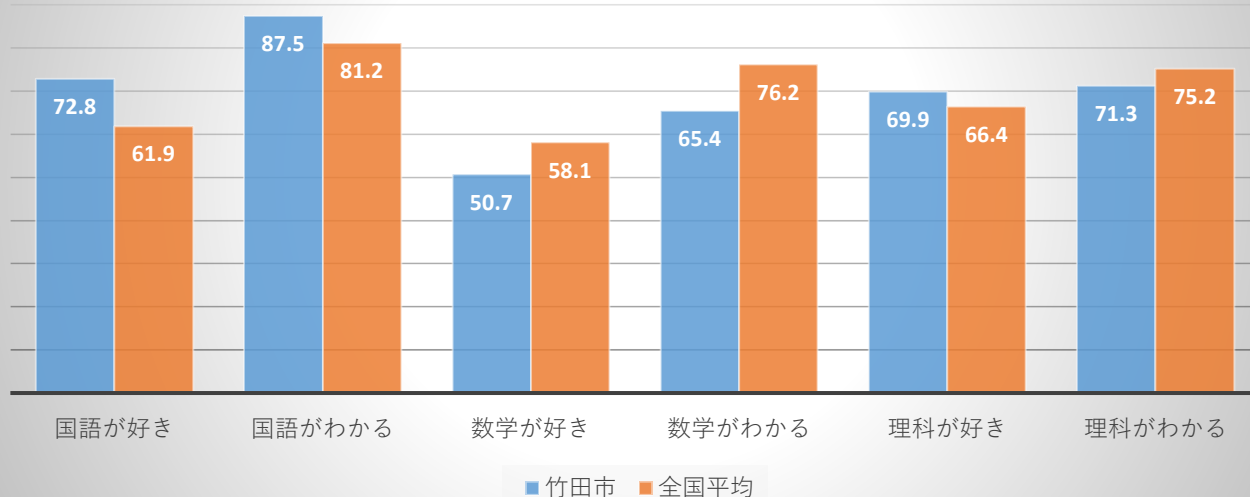
◆肯定率が高かった項目（全国平均との比較）

	竹田市	全国平均	差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	57.3	40	17.3
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	82.4	67.2	15.2
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.5	76.8	10.7

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

	竹田市	全国平均	差
放課後や週末に、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	15.4	36.8	-21.4
授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使っていますか	24.3	37.2	-12.9
自分には、よいところがあると思いますか	72	78.5	-6.5

教科学習について



◆肯定率が高かった項目（全国平均との比較）

	竹田市	全国平均	差
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	100	70.8	29.2
児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか	40	21.1	18.9
評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	100	84.1	15.9
PC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（週3回以上の割合）	100	85.1	14.9
大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか（週3回以上の割合）	100	86.2	13.8

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

	竹田市	全国平均	差
ICTを活用した校務の効率化を通じて、児童の出欠・遅刻に関する事務は軽減しましたか	10	63.5	-53.5
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	30	80.9	-50.9
授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	40	75.1	-35.1
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	50	83.8	-33.8
ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど）は軽減しましたか	30	60.8	-30.8

◆肯定率が高かった項目(全国平均との比較)

	竹田市	全国平均	差
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	100	55.8	44.2
教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	83.3	44.1	39.2
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	83.3	49.4	33.9
教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	83.3	55.7	27.6
近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	83.3	58	25.3

◆肯定率が低かった項目(全国平均との比較)

	竹田市	全国平均	差
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	50	79.7	-29.7
近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	33.4	61.1	-27.7
生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	33.4	56.2	-22.8
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	66.7	88.2	-21.5
生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	66.7	87.9	-21.2

小学校
低学年

高学年

中学校

市教委

基礎基本の定着

①基礎の定着を徹底する

- 徹底した読む、書く、計算の繰り返し
- ・タブレット端末の持ち帰り(毎日)

①個別最適化学習の実施

- 個別指導、補充学習の充実
- ・タブレット端末の持ち帰り(毎日)



- ① 学力調査結果の分析と学力向上プランの検証・改善(年2回)

学びに向かう力の定着

②家庭学習の習慣化

- ノート等をもとに、家族に習ったことをアウトプット(説明)する

②家庭学習の充実

- 授業の内容と関連付けた宿題
- ・「自主学習」の習慣化

- ② 授業等の好事例の発信

思考力・判断力・表現力の向上

③本をたくさん読む

- 毎日本を借りる習慣づけ



③いろいろな本を読む

- 学校司書や市立図書館等と連携し、質の高い本と出わせる

③読解力・表現力の向上

- ・「新聞コラム」の読解
- ・新聞投稿



- ③ 学力向上支援事業の推進及び活用
 - ・小学校授業力向上アドバイザー
 - ・小学校教科担任制推進教員
 - ・中学校授業力向上アドバイザー
 - ・中学校英語教育推進教員

《組織的な授業改善》

★授業構想<授業前>

- 「付けたい力」の明確化→単元計画の作成(めあて・課題・まとめ・振り返り)の準備

★授業運用<授業中>

- 「めあて」の共有と「ふりかえり」の着実な実施(メタ認知能力の育成)
- メリハリのあるテンポのよい授業(教師が説明しすぎない)(ICTの活用)
- 自分の考えをノート等にしっかりとまとめる場面のある授業
- 生徒指導の3機能を意識した授業

★授業評価<授業後>

- 理解度をこまめにチェックし、個別指導、補充学習や授業改善へつなぐ



- ④ 校外資源の積極的活用のファシリテート
 - ・大分大学との連携
 - ・県教委等指導主事招聘
 - ・先進地視察及び研修会の開催

- ⑤ ICT活用の環境整備

- ⑥ 「幼・小・中・高」校種間連携の推進
 - ・読書活動の連携

○管理職・ミドルリーダーによる指導 ○学力実態の組織的な検証と改善(年間4回)

○学年部会・教科部会の積極的推進 ○小学校教科担任制の推進